

愛媛県県立学校振興計画「第1回地域説明会（今治・越智地区）」での 主な御意見等について

令和4年8月6日～21日において、「愛媛県県立学校振興計画」策定の目的や計画（案）の内容などについて説明する地域説明会を8地区で開催しました。

本地区における主な御意見等については、以下のとおりです。

【しまなみ海洋高校（仮称）関係】

| 項目 | 主な御意見等 | 県教育委員会の考え方 |
|-------|--|---|
| 準備委員会 | しまなみ海洋高校の開校に向け、準備委員会を立ち上げるとのことだが、地域の意見をくみ上げる委員会にしていきたい。準備委員会の詳細について知りたい。 | 準備委員会のメンバーについては、伯方分校及び大三島分校の学校関係者をはじめ、市町行政関係者、地域住民の方々などを想定しています。校名や学科を構成する系列などについて検討していただくとともに、教育内容についても助言をいただく予定です。 |
| | 伯方島は、マリンビジネスや造船・海運関係の会社でにぎわっており、多くの会社に高校生へのニーズがある。地元の企業と連携するためにも、学校のスクール・ミッション、スクール・ポリシーをしっかりと策定してから、この計画を進めていくべき。 | 伯方キャンパスに設置予定のマリンビジネス系列は、お話のような地域独自の産業構造に沿った産業人材の養成に加え、マリンレジャーや船舶関係の資格取得等もサポートすることで、「海に関わる人づくり」を目指すこととしております。 具体的なスクール・ミッションやスクール・ポリシーについては、来年度以降、準備委員会において助言をいただきながら策定することとしています。 |
| 計画全般 | 競争を勝ち抜いていける優れた人材を地域で育て、地域に帰ってきてもらうことが大事である。地域が求めている学校づくりに協力していただきたい。 | しまなみ地域は、全国に比するもののない豊かで特色ある地域資源を有しています。今回の計画案では、進学や資格取得等に必要な学力を育成するとともに、こうした島の長を学びながら、地域内外の団体や企業等と連携した課題解決型学習を充実させることにより、島の課題を我が事としてとらえ解決する力や、世界とも伍していける広い視野や行動力を養い、島と海の将来に貢献できる人材を育成することを目指しています。 |

| | | |
|------|---|--|
| | <p>計画案には、どのような人材を育成するかなどの将来像が記載されていないが、今後、計画に記載される予定はあるのか。</p> | <p>計画案では、社会が大きく変化する中、各教科で学んだ見方・考え方を基礎としながら、 ○地域と連携しつつ、社会の課題や解決方法等について、『自ら考える姿勢』 ○広い視野を持って何事にも主体的、協働的に取り組み、人生を『自ら切り拓いていく力』 を備えた人材の育成を目指していきます。 なお、再編後の学校が各々に目指す学校の将来像や生徒が備えるべき資質・能力などについては、準備委員会からの意見も伺いながら、スクール・ポリシーとして各学校が作成し公表することとなります。</p> |
| 計画全般 | <p>このまま人口減少が進むものと予想されるが、伯方分校と大三島分校が統合した後も、これまでと同様にチャレンジシステムで再編していくのか。</p> | <p>令和5年から14年までの10年間は、新チャレンジシステムの基準が適用されますので、統合後については、新チャレンジシステムによる再編の対象となります。ただし、前期計画の期間中は、今回提示した案が優先されるので、統合前の令和8年度までに、基準である3年連続30人以下に該当したとしても、該当校のキャンパスがなくなることはありません。また、基準と照合する入学者数は、しまなみ海洋高校（仮称）全体でカウントされることとなります。</p> |
| | <p>計画案の内容について、産業人材の育成という性格が強すぎる。理数情報などの理系の学科・コースが各地域に設置されるが、志願者をどのように確保していくのか。</p> | <p>今回の計画のねらいは、「多様な選択肢」、「学科横断型の学習」、「進学指導の充実」の三つであり、決して産業人材の育成のみに注力しているのではなく、進学指導の充実も目標の一つです。 また、情報人材不足が国家的課題とされ、小学校から高校に至る情報教育の強化や情報系大学の増大が見込まれる中、理数情報などの志願者は確保できるものと考えています。</p> |
| 教員配置 | <p>人事異動で教職員の入れ替わりが激しく、伯方高校時代からいる教職員は3人程度しかいない。学校をよく知る教職員が減っていき、生徒ファーストになっているとは思えない。</p> | <p>教育の在り様は日々刻々と進化しており、また教育の質に淀みを生じさせないためにも、教職員の新陳代謝は必要です。 人事異動については、当校に限らず、県の統一基準に従い、個々の事情も勘案しながら、学校や生徒にとって最適と考える配置に努めておりますので、ご理解をお願いします。</p> |

| | | |
|--------------|---|---|
| <p>教員配置</p> | <p>県内に特色のある学校を設置しているが、魅力ある先生や講師の人材確保、育成などの構想はあるのか。</p> | <p>専門性を有する本県の教員を軸としながら、必要に応じ、大学や企業等から外部専門家の派遣を受けることとしております。</p> <p>令和4年度からの新しい学習指導要領では、全ての学校が特色・魅力ある教育を行い、生徒一人一人が主体的に学びに取り組むことを支援することを目指しています。県教育委員会としても、高校生が現代社会や地域の課題解決に向けた探究活動を行い、それら優良事例を共有するための事業を進めており、このような取組を通して、教員の指導力を高めていくこととしています。</p> |
| <p>コース系列</p> | <p>マリンビジネス系列や島の農業系列の内容について、詳しく教えてほしい。</p> <p>マリンビジネス系列では船舶免許取得も考えているそうだが、免許取得のカリキュラムを実施するためには、実習船や指導者の問題などがあり、ハードルが高いのではないか。中途半端なカリキュラムになるのであれば、総合学科ではなく、進学一本で、神戸大学海洋政策科学部や東京海洋大学などを目指せるような進学重視の学校にしてもらいたい。</p> | <p>マリンビジネス系列については、地元海運事業者と連携した海事産業の現状や経営学基礎の学習、国際法規も含めた法令・金融・保険等の関連分野の学習、マリンレジャーの基礎学習、船舶免許の取得などができるカリキュラムを想定しております。</p> <p>島の農業系列については、主要品目の柑橘やブドウ、オリーブなど新品目の栽培技術や加工・商品開発・流通など、島に適した農業に関する学習を中心に、多方面の学習ができるカリキュラムを想定しています。</p> <p>詳細については、来年度以降、準備委員会で検討していくこととなります。</p> <p>マリンビジネス系列の学習内容については、今後、検討を重ね、進学・就職ともに、本人の希望する進路につなげるよう、確かな学びを提供することとしています。</p> <p>総合学科の長所は、多様な選択科目を設定できることにあり、大学等に進学したい生徒にもしっかりと対応できる弾力的なカリキュラムの作成を目指しています。また、1年生は共通科目で、2年生からは、系列を自由に選択することを想定しており、生徒の進路希望に沿えるよう、系列ごとの人数制限は設けない予定です。</p> <p>施設や指導者については、設定する教科を踏まえ、必要な体制を整えていく予定です。</p> |

| | | |
|-----------|---|---|
| コース 系列 | しまなみ海洋高校に文理探究系列と総合進学系列があるが、両系列の違いを教えてください。 | どちらの系列も大学等への進学を重視した系列で大きな差異はありません。強いてあげれば、文理探究系列では主に学力強化により一般入試による大学進学への対応を想定しており、総合進学系列では総合型選抜等も意識した大学進学への対応を想定しています。伯方分校、大三島分校では、特色ある教育を進めてきた実績があり、それぞれのよさをアピールするため、系列の名前も違う名前にしたいと考えていますが、実際の名称は、準備委員会においてご意見をいただきながら決定したいと思います。 |
| 支援 | 今後、全国募集で入学する生徒が増加した時に、宿舎や食事提供が心配である。地域内にある学校の運営には、地域の協力も必要であると考えているが、負担も一定程度ある。 | 両校ともに、地域や地元自治体から多大な支援を受けていることは、本当にありがたく感謝しています。県からの支援については、全県立高校の8割以上に当たる42校が定員割れとなっている状況下において、これら全ての学校に、一律に寮の整備や通学に関する補助を行うことは難しいと考えています。地区外や県外からの生徒が安心して日常生活を送るためには、地元の温かい見守りや御支援が不可欠であり、当該生徒の保護者が進学先決定の際に最も重視する観点の一つでもあります。今後とも同校を支えていただき、できる範囲でのご協力を頂ければありがたいと思います。 |
| 学び 直し | しまなみ海洋高校のマリンビジネス系列や島の農業系列に、成人がもう一度入学して、学び直しを推進していくという考えはないのか。 | 普通科を卒業した方が別の学校の普通科に入学するというように、同じ大学科へ再入学することは制度上できませんが、パソコン教室など、外部に対しての公開講座を実施して、地域の方々へ学びの場を提供している学校はあります。 |

【その他】

| | | |
|-----|--|---|
| その他 | 大学などの高等教育機関の進学については、家庭の負担が大きいので、給付型の奨学金の拡充など、安心して教育を受けられる体制づくりをお願いしたい。 | 大学や短大、専門学校など、高等教育の修学支援制度については、令和2年度から新しい給付奨学金、授業料等減免制度がスタートするなどの措置が講じられています。また、給付型奨学金の拡充について、その必要性は認識しており、既に全国知事会及び全国都道府県教育長協議会から国への要望も行っていきます。 |
|-----|--|---|

しまなみ海洋高校（仮称）の魅力化

総合学科
定員80人

島の豊かな自然の中で学ぶキャンパス制高校

伯方キャンパス

文理探究系列

主に学力強化により一般入試を
想定した大学進学を目指す

授業や補習
を更に充実

一般入試に対応
できる学力の強化

マリンビジネス系列

海運・海洋などを学び
関連する進学、就職を目指す

海運・海洋ビジネス

マリンレジャー

海上法規

小型船舶

海洋環境

大三島キャンパス

総合進学系列

主に総合型選抜等の利用を
想定した大学進学を目指す

地域資源を活用
した課題解決学習
(例) 参道ガイド
お仕事図鑑

プレゼンテーション

小論文

地域社会学

観光学

島の農業系列

柑橘農業・流通などを学び
関連する進学、就職を目指す

島の果樹

商品開発

スマート農業

流通経済

バイオテクノロジー

系列を越えた
授業選択

*総合型選抜：大学が『どのような学生に入学してほしいか』を示し、これに合った人物を選抜するための入試方法。書類、面接、小論文での選考が基本とされているが、プレゼンテーション、実技、グループディスカッションなどを課す大学もある。

学校行事・部活動などは
合同で実施

